



(1)タイトル

メール交換でいいところさがし

(2)サブタイトル

メールが届けるみんなからのメッセージ

(3)校種 教科 学年

小学校 道徳 6年生

(4)コンピュータ活用のアイデア

・アイデア

校内ネットワークメールを使い、学級内全児童間でメール交換を実施し、手紙として多くの級友から届く喜びを感じ取らせる。

・メリット

メール交換は、個人あてに届く楽しさと届いたものが画面に表示される楽しさがある。
楽しいゲーム的な手法を使うことで子どもたちの意欲を高めることができる。

(5)単元・項目

小学校 道徳 信頼友情

実践者 松本 正樹

所属 神崎郡福崎町立福崎小学校 (現在 神崎都市川町立甘地小学校)

(6)対応する学習指導要領の内容

2 主として他の人とのかかわりに関すること。

- (1) 時と場をわきまえて、礼儀正しく真心をもって接する。
- (2) だれに対しても思いやりの心もち、相手の立場に立って親切にする。
- (3) 互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲よく協力し助け合う
- (4) 謙虚な心もち、広い心で自分と異なる意見や立場を大切にする。
- (5) 日々の生活が人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それにこたえる。

(7)指導目標

相手から信頼され、友情を高めることは自尊感情を高め、人権意識の高揚につながっていく。自尊感情を高める手法として『いいところ探し』を取り入れ、信頼されることの喜びを感じ、信頼される人間になろうとする意識を高める。そして、自分を肯定的に認め、「自分らしさ」に自信を持たせる。



(8)コンピュータ活用のねらい

友達のいいところを考え、校内ネットワークのメールを利用して手紙として送った。メールの送信と届いた自分を認めてくれる個人あてメールを開くという共に主体的な活動にメールの機能を活用した。

(9)実践のポイント

信頼関係と自尊感情

信頼は人間関係を結びつけるきずなであり、社会生活を成立させる基本的な関係である。信頼関係を深めていくことで、豊かな人間関係が築かれていくのである。信頼してもらえることは、心に安らぎをおぼえ自分自身を見つめることにつながる。さらに、お互いが信頼し合うには、相手を知り、自分を知ることである。相手を受け入れる豊かな心と、自分に対してよいイメージを持つ肯定的な自分自身を意識することで、子どもたちにとって認め合い分かり合える関係が成立していく。この関係をつなぎ広げることは、自尊感情の育成にもつながるものである。

メールを書く

第1時で10人のグループにわけ、良いところをみつけてグループ別に全員にメールを書いた。時間に余裕がある児童については、グループ以外にもどんどんメールを書かせた。

校内ネットワークを活用して、時間外にもいいところメールを送ろうと意欲的に取り組めたようである。

メールを読もう(本時)

メールを送っている時間は、届いたメールを開かない約束で書かせてきたため、早く読みたい気持ちがどんどん高まり、本時を楽しみにしていたようである。メールは、返信も簡単な操作で行える。届いたメールにさらにいいところをみつけて返信をさせた。時間的なことがあるので短文で記入する約束とした。返信を書いている間にさらにメールが届くことになり、意欲はさらに高まったようである。認めあえる関係を深めた。

だれのメール?ゲームをする。

個人あてに届いたメールを、本人に了解を取りながら宛名を隠して教師機でまとめた。いいところばかりを書いたメール数通を全員に提示し、だれに届いたメールかを当てるゲームを実施した。今までとちがった視点で児童個人を見つめることになる。メールを紹介された児童本人も、いいところを全員に紹介され、わかってもらえるうれしさを感じることができた。



(10)子どもたちの反応

メールを書く

いいところさがしの手法は、自尊感情を高め自分自身をみつめることで大変効果的である。メール作成は、課外として何回かにわけて取り扱った。課外での時間を与えコンピュータのメールを使ったことで、子どもたちに相手のことをじっくりと考える時間を与えることになった。そして、目の届かないところから自分宛に届くメールの楽しさが体感できた。

メールが届く・返信メールを書こう

子どもたちが、メールを書こうとコンピュータを立ち上げるたびに自分宛に届いているメールが増えているのである。意欲を盛り上げることにつながったように思う。自分宛に届いたメールを自分の手で開くことができ、内容をじっくりと読み確かめることができたようである。メールを送るという行為も、メールを受け取り開くという行為も、ともに自らが主体的に参加することにつながり生き生きとした授業として展開できた。面と向かっては言えないことでも、メールによって素直に心が出せたようである。

届いたメールを開いた感想

- ・めっちゃうれしい。はじめてメール交かんしてみてすごうれしかった。もっと送ってみたいし、読みたい。
- ・いろいろなことが書いてあって、読んでいてとても楽しかった。
- ・5年の時は、こんなこと書いてくれる人はいなかったけれど、今ではメールを送ってくれる人ができてよかった。
- ・自分では、ぜんぜん思っていないことなど、みんなが書いていてうれしかった。
- ・まさかこんなぼくにメールが届くなんて、うれしかった。
- ・なんか気持ちが届いたみたいな感じで、うれしかった。
- ・わたしのいいところをいろいろ見ているんだなあと思った。

誰に届いたメールだろう(宛名をかくして)

また、個人あてに届いたメールを全員に紹介しながら、誰に届いたメールかを考えるゲームでは、みんなに見つけてもらうことで認められる喜びとなった。恥ずかしそうな表情の中に喜びがあふれていたように感じた。